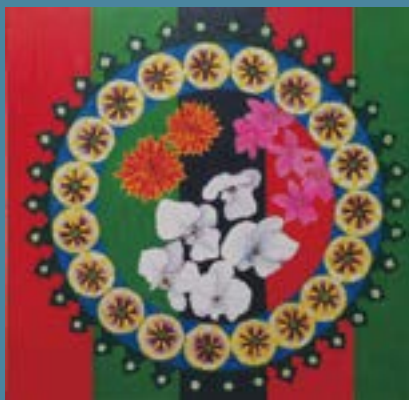




まちてくギャラリー 27

東和町土澤商店街での日常に溶け込む美術
2018年11月～19年1月の展示



齋藤 誠



「Megaptera」 「UBE Biennale」 2017



「高田博厚」彫刻プロムナードを訪れて
中村光紀

まちてくギャラリー

神山 豊・齋藤 誠



クスリと芸術 武政 文彦

「まちてくギャラリー」 #27
2018年11月、12月、2019年1月の展示

作品写真提供

神山 豊・齋藤 誠

展示場所

花巻市東和町土沢商店街 22ヶ所

発行

東和町土沢商店会連絡会 2018年12月

企画編集

tonccaci atelier

花巻市東和町田瀬 14-120

菅沼 緑

roqu@me.com 090-9154-5748



アートプロジェクトが華々しく作品を並べ立て、時ならぬ美術の街を賑わいに満たすのもよいでしょう。

一方、いつでもそこにある、という展示が日々に溶け込んでいる光景があってもしかるべきだと考えています。

『まちてくギャラリー』とは、花巻市東和町土沢商店街の22ヶ所。各商店の外壁に作品写真をそれぞれ、3枚ずつアクリルの箱に入れて展示をするものです。

その、『まちてくギャラリー』の記録としてこの小冊子を平行して作り、配布をしています。

これらの事業は、花巻市『東和町土沢商店会連絡会』を通じて、花巻市の『まちの顔作り事業』からの補助と、多くの読者のかたがたからの寄付によって制作されています。



（鎌倉のアトリエにて1982年）高田博厚（82歳）、中村光紀（42歳） 撮影・沖村正康

「高田博厚」彫刻プロムナードを訪れて

埼玉県東松山市の「高坂」

萬鉄五郎記念美術館 館長 中村光紀

私が彫刻に興味を持ったのは、フランスで活躍したロシアの彫刻家ザッキンの作品と彫刻家高田博厚との出会いからである。

1973（昭和48）年に、岩手県内初の文化施設として「岩手県民会館」が開館され、その記念展を岩手日報社主催で『ザッキン大回顧展』を担当した。

当時絵には興味があったが、彫刻まで積極的に見ることはしなかった。ザッキンのことはあまり知らなかった。同展は、前年パリでの回顧展に引き続き東京、大阪、盛岡への巡回展であった。

キュビズムの影響を受けた造形の探求は、モダンで力強く、いっぺんで好きになった。記念講演会の講師に高田博厚（1900～1987）を招き、以来高田が無くなるまで17年間ご指導をいただき、彫刻など芸術全般について多くの事を学ぶことができ感謝している。

高田博厚は福井中学を卒業して上京、高村光太郎との出会いから彫刻の道に進んだ。その間、東京外国語学校（現東京外国語大学）イタリア語科に入学したが、すでに独学で取得していたイタリア語より程度が低く2年で中退、そして弱冠22歳の時（1922年）、岩波書店から依頼されて、

ミケランジェロの弟子コンデイヴィの《ミケランジェロ伝》を翻訳、膨大な注釈をつけて出版した。わが国におけるルネサンスの最初の出版とされる。

高村光太郎の勧めで共に「国展」、武者小路実篤の「大調和展」に彫刻を出品して高い評価を得ていたが、31歳の1931（昭和6）年に、フランスに渡りロマン・ロランの知遇を受けた。ロランは「高田は精神を作る本当の芸術家だ、彼は指で思索する」と言って、自分の肖像を唯一無名の彫刻家であった高田に依頼したのである。

その年の冬、スイスに居るロランから旅費入りの書留めが高田に届く。「ガンジーがロンドンの会議の帰り、ロランの家に来て1週間滞在するから彼の素描でも画く気ですぐ来い」とあり、しかも1人で来い、誰にも言うな、知られると多くの人が押し寄せて大変だからとあった。

ロマン・ロランとガンジーの5日間の対談に、高田は同席しデッサンをした。

最後の晩、ガンジーの求めに応じて、ロマン・ロランはピアノでベートーベンの第5（リスト編曲）を弾いた。

終わってロランはガンジーに微笑んで言った「ムシユ、ガンジー、音楽は魂の独白である」。そして高田は日本に



《男のトルソ（ヘラクレス）》1973年



《大地》1978年

私は去年6月17日（高田の命日）東松山市で「高田博厚没後30周年記念イベント―思索の灯」が行われた時、そこを初めて訪れた。高坂駅西口を降りてすぐの小緑地に、等身大の裸婦立像《遠望》と座像の《大地》があった。そこを起点に道なりに数10メートル間隔に《水浴》《アラン》《海》《女のトルソ》などの作品が1キロメートルにわたって両側に設置されている。そして「関越道」を跨いで間もなく折り返し、駅まで作品を鑑賞しながら戻るようになっていた。

設置された肖像彫刻では、アラン、ポール・シニャック、ガンジー、高村光太郎、高橋元吉、棟方志功らは高田の交友のあった人物である。

彼は著名な人物の肖像を多く作っているが、単に知名度だから作るのではない、彫刻になりうるかどうかは「対象が、黙っていて、内から語りかけてくるものがないなら、彫刻の素材とはならぬ」と高田は言っている。

「彫刻家は内部のものが形を構成する知恵を学ぶ。この意味で、私にとって人体も肖像も同じことである」と記している。

また、高田は「調和のある」裸婦を多く作っている。

帰国後に、ガンジーの頭像やインド救済センターのための「マハトマ・ガンジー（全身像）」を制作した。

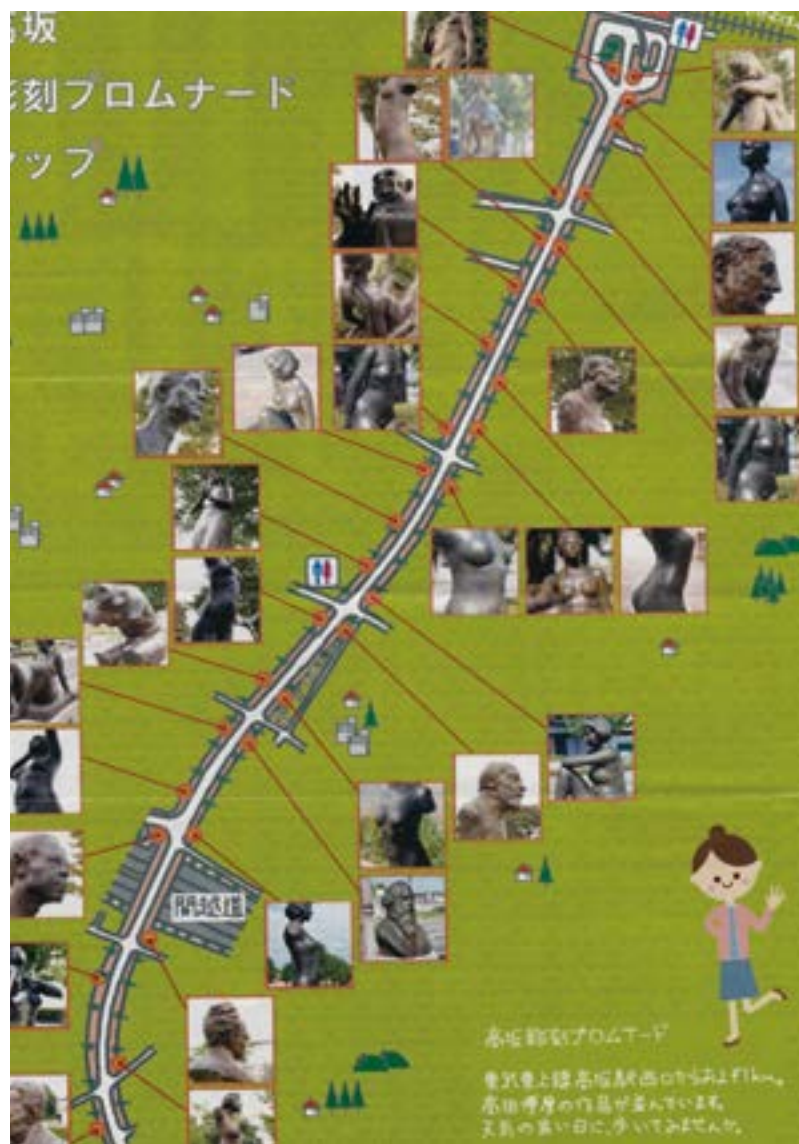
以後、第二次世界大戦を挟んで27年間パリに滞在してロマン・ロランはもとよりアラン、マルセル・マルチネ、ヴィルドラック、ルオー、シニャック、ジャン・コクトーらフランスの第一級の知識人、芸術家との親密な交友が創作と思索の原点となった。その間、戦前に毎日新聞の特派員となり、パリ外国記者協会の副会長、会長を務めた。戦後は読売新聞嘱託特派員となる。1948年からカンヌ映画祭の日本代表を10年間務めた。

1957（昭和32）年に帰国後、鎌倉のアトリエで高村光太郎、宮沢賢治、新渡戸稲造らの肖像や裸婦像を多く制作した。

*

埼玉県東松山市の東上線「高坂」駅西口から道路上に1キロにわたって、高田博厚の代表的な彫刻32体が設置されている。「高坂彫刻プロムナード」である。

野外に彫刻を設置する「彫刻のある街」作りが各地で行われているが、1人の彫刻家だけの作品で街の通りに常設している例はない。



高田博厚没後30年記念イベント「思索の灯」パンフレットより



《カテドラル》1937年

なかでも他の彫刻家より「トルソ」が多く、その内部から語りかけてくる作品に魅了される。「トルソ」とはイタリア語で、頭や手足を欠いた「胴体」だけの彫刻をいう。人間で最も表情豊かな顔、手や足もない胴体（トルソ）だけで「美の本質」を示すことができるかは、作る彫刻家の力量による。

高田のトルソは、見るものの内部に無限に語りかけてくる「存在」することの「やすらぎ」がある。

このプロムナードに《カテドラル》など、優れたトルソ10点が置かれている。そこを訪れるとその魅力に接することができる。

東松山市「高坂」の1キロメートル路上に、32体に及ぶ高田博厚の彫刻プロムナードは、きわめて高い文化度を有している。一つの自治体で成しえたこの芸術的試みは、全国的にも希有なことで、よくぞやっとなだにエールを贈りたい。

高田は「彫刻芸術は、〈心ある者〉のみその前に立ち止まらせ、そして無限に語りかけてくるものだろう」と記している。優れた彫刻は、その空間を支配する。

(なかむらみつり)

神山 豊

かみやま ゆたか

ゆるやかに 海との同調

海辺に暮らして、素潜りを日ごろの楽しみにしていた
神山さんの「海」。

三浦半島は海と山が混ざり合うリアス海岸。きびすを
返せばそこには山が深い森を抱えています。

作品も海の命と山の木を素材にして、しかも動く彫刻
です。見るひとは大きなハンドルを回したくなります。
カタカタと仕掛けが音を立てて、少々きこちなく身を
くねらせる、くじらや大きなイカ。あたかも生きてい
るかのような動作をさせると、大きなハンドルは命の神様
になったような、一瞬の錯覚すら持たせてくれるのでは
ないでしょうか。動くことがひきよせるイメージのおお
らかなゆらぎ。
くじらもゆらゆらと同調するでしょう。



Speam Whale & Giant Squid 270×140×210cm 2,013年 桧、銀杏、桜、樺、樫

- | | |
|------|----------------------------------------------------|
| 2008 | 渡米 NYで彫刻を学ぶ |
| 2010 | 国展彫刻部に出品 |
| 2013 | 国展「彫刻部奨励賞」ISE NY Art Search
「ISE AWARD」(ニューヨーク) |
| 2014 | 「ISE NY Art Search 受賞者展」出品
(ニューヨーク) |
| 2015 | 国展「氏奨励賞」YB展「横須賀美術館」 |
| 2016 | 神奈川県美術展「準大賞」パリエール
アートフェアー「明日の巨匠賞」 |
| 2017 | 「21st UBEコンナール」
「下関美術館賞」 |
| 2018 | 韓国カンヌン市「ハスラアートワールド」
アートレジデンス |

<https://artsofkamiyama.jindo.com>
〒240-0105 横須賀市秋谷2-2-16
y-kamiyama@jcom.home.ne.jp



Blue Whale 270×160×210cm 2015年 桧、樟、樺、桜、榧

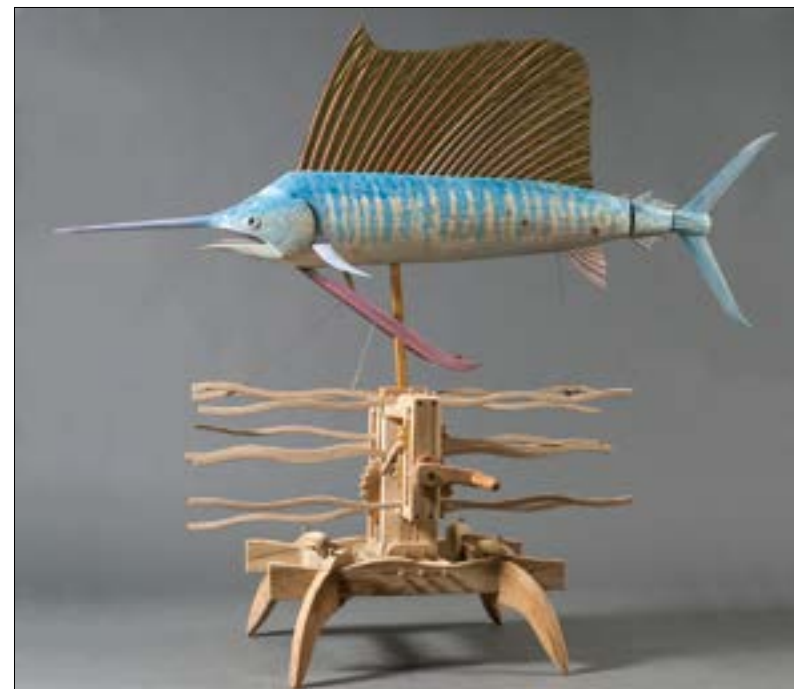


Megaptera 「UBE Biennale」 230×390×280cm 2017年 桧、樺、樫、ウリン、パドック





Mola Mola 120×120×190cm 2014年 銀杏、樟、栗、櫟、榿



Sailfish 270×120×220cm 2014年 桧、樟、櫟、榿、桜



Megaptera 「UBE Biennale」 230×390×280cm 2017年 桧、樺、榎、ウリン、パドック



Mermeid 270×200×220cm 2016年 桧、樟、楓、榎、桜、樺



Lionfish 100×120×190cm 2013年 樟、榊、樺、桜、榎

齊藤 誠

さいとう まこと

気ままにゆくところは いつもここ

齊藤さんは作品にタイトルを付けたことがないといひます。

私にしても、作品を作るときは、いつも同じ気持ちでやっているのだから、どれも同じはずだ、と考えていたことがあります。

恐らくそうなのでしょう。

そしていつも描かれるのは花の模様。ある程度規則的に並べられた花たちは、ほとんどが茎も葉もなく花びらが浮き上がるように並べられて、どこか所在なげな感じもします。丸く輪になって競い合うようでもなく、仲良く並べられているようにも見えます。

いつも描きはじめるど、こうなるんだよという感じがします。



齊藤 誠 プロフィール

1965 グループ展 村松画廊 (東京日本橋)

1966 グループ展 ときわ画廊 (東京日本橋)

1970 現代美術野外フェスティバル

1977 個展 藍画廊 (東京銀座)

1978 個展 田村画廊 (東京日本橋)

1980 個展 インディペンデントギャラリー (東京銀座)

1982 グループ展 インディペンデントギャラリー (東京銀座)

1984 1987個展 早野ギャラリー

1985 グループ展 インディペンデントギャラリー (東京銀座)

1988 2017「個展」ギャラリー現 (東京銀座)

1999 熱海ビエンナーレ (静岡熱海)

1996 2003 個展 ギャラリー横須賀 東洋美術

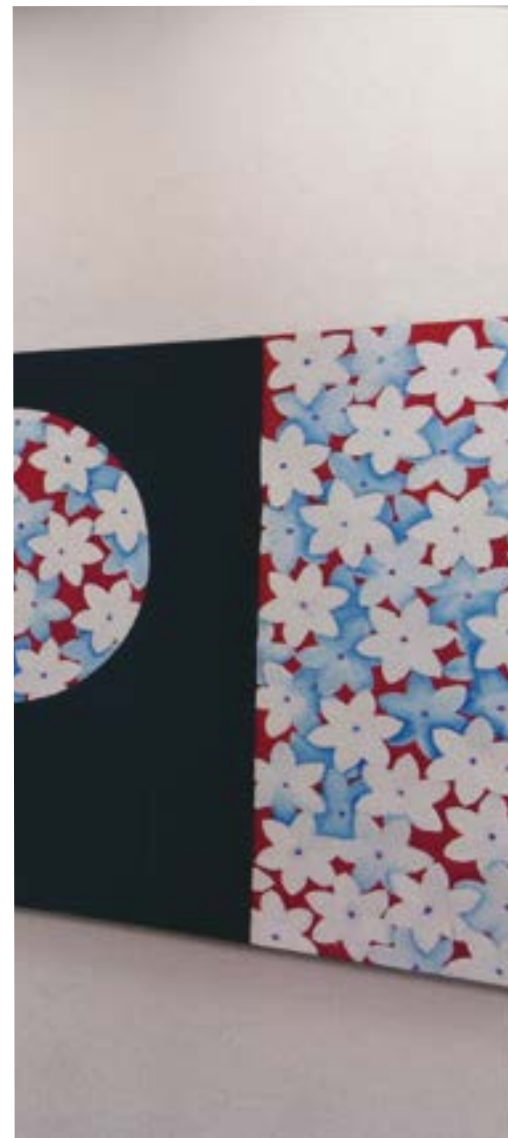
1998 グループ展 MUSEUM HAUS KASUYA (神奈川横須賀)

2001 横須賀BASE前ギャラリー (神奈川横須賀)

2004 フジアートコーポレーション (神奈川横須賀)

2010 上町ギャラリー (神奈川横須賀)

2011 2012 個展 Thomas Bar (神奈川海子)











Nature circle (生の道標 '12)
30,0×20,0×53,0cm
樺、米松、萩の枝、薄羽紙
26号24ページ。写真が別のものでした



Dialogue 1990Q- 宝金山幻影-
1990年123,3×102,0×16,2cm
コルクにリトグラフした風景を樺の皮に貼る
26号22ページ。トリミングが不適切でした



Nature circle (大意)
43,2×40,5×44,0cm
樺材、萩の枝、薄羽紙、etc 川越・亀屋榮泉倉空間
26号25ページ。トリミングが不適切でした



Woody land II
1993年、16,8×17,8×58,0cm
樺の皮、野葡萄、青桐、その他
26号23ページ。トリミングが不適切でした

Uon dem ultz gebrenten wasser
 Als die nützliche büchlein. In welchem
 man die jüden gebrenten wasser vnd beschreibung
 als barmherziger Christen Schick beichten
 der erney die bi menschen bequeme ist.



水の蒸留（木版画1519年）。くすりの基本になるのは清潔で純粋な水である。ユニセフによると、現在でも6億6,300万人もの人々が安心して飲める水が身近になく、汚れた水が主な原因の下痢で亡くなる乳幼児は年間30万人もいるという。

違うもの、示された分量が十分に入っていないもの、あるうことか体に有害な物質を入れて販売されているものすらある。

インターネットで医薬品が手に入る時代になり、日本も二七薬の有力な市場になりつつあるのが危惧される。厳格な品質および流通規制で有名なわが国では、医療機関や薬局など正式に許可を受けた施設から供給される医薬品は安心だ、と言いたいところだが、そもそも言えなくなつた。平成29年、奈良県内の薬局からC型肝炎治療薬「ハーボニー」の二七薬が出回ってしまったのだ。

さて話は一足飛びに中世のイタリアへ飛ぶ。芸術の新しい時代を切り開いたルネサンス期に多くの芸術家を世に送り出したのはメディチ家である。Casa de' Mediciの名の「House of Medicine」つまり「くすり家」であるメディチ家は薬種商として財をなした。もちろん銀行家としての同家の顔も忘れてはならないが、ともかく先祖は「商品」としての「くすり」に目をつけ大商いをした。そもそも「くすり」は少量でも高価で、しかもその内容は専門家にしかわからない秘



日々思ふことこ

くすりの効用、人にとどまらず
 広く世の中に浸透するの感あり

くすりと芸術

武政 文彦

薬剤師・東和薬局

2018年、薬の世界ではノーベル医学生理学賞で本庶佑氏の開発したオプジーボが脚光をあびた。「がんの特効薬開発者に栄誉」と新聞雑誌の見出しが躍る。3か月くらいをすぎるとこの手のニュースは賞賛からダークな見出しへと転換することがある。

オプジーボもご多分に漏れず「製薬会社と学者の確執」「報酬をめぐる軋轢」などと週刊誌が書き立てた。夢の新薬も名誉やお金からんだ途端に色あせてしまう。ことほど左様に「くすり」というのは他の消費財と違いまことにやっかいな代物である。

かつて辰野高司氏という薬学者は明快にその本質を3つに整理した。いわく「くすり」とは「化学物質」であり、「生理活性物質」であると同時に「商品」でもあると。最後の「商品」という本質は、「くすり」が交換価値のある物質であると思いだされてから今に至るまで、我々人間は未だに手懐けるのに苦労している。何しろ必要とする人にはいくら金を払ってでも手に入れたいものであり、覚せい剤や麻薬の取引を思い浮かべるだけでも容易に想像できるであろう。

また二七薬も世界中で横行している。表示と中身の



かつてベルリンにあった中央薬局の薬用植物の花瓶（1713年以降のもの）。ドイツのマイセン焼きのデザインは初期のころ、日本の伊万里焼に影響を受けたといわれている。写真の陶器も白磁に青一色で模様を表した染付陶器で、その影響を感じることができる。



薬剤師としてのキリスト。数々の奇跡で多くの人々を癒したキリストは、薬の使い手でもあったという言い伝えがある。ドイツ・ベルダーの精霊教会の絵画（1650年頃）。

匿性がある。

さらに微量で生理活性を引き起こすので扱い方によつては毒にもなる。中世ヨーロッパでは毒殺が横行した。「男は剣で、女は毒薬で」という言葉があるように非力な女性でも毒を盛ることで、気に食わない相手を殺傷することが可能であった。あまりにも毒殺が多かったので、むやみに毒物が出回らないように「薬の番人」を当時のヨーロッパ社会は置くことにし、その職業人こそ薬剤師だった。

話がそれた。メデイチ家にもどそう。ルネサンス期に綺羅星のごとく排出した芸術家たちのパトロンとしてのメデイチ家の役割は大きい。ミケランジェロやダ・ビンチはもとより多くの芸術家の作品制作の原資の一部はくすりの販売代金だったといっても過言ではないと私は思っている。

時代は下って現代へ。ルネサンス期は薬種商の資産家が担ったパトロンを、現代社会で引き継いでいる者の一部は製薬会社である。日本では大塚製薬グループが開設した大塚国際美術館（徳島県鳴門市）、大正製薬の社長が私財を投じた上原近代美術館（静岡県下田

市）、リードケミカル㈱が収集したコレクションを公開する森記念秋水美術館（富山県富山市）などがある。残念ながら訪れたことはない。海外ではスイスのバーゼルにティンゲリー美術館という現代美術館があるらしいが、これは巨大製薬企業のロシュ社が創立100周年を記念して市に寄贈したという。

ロシュ社は、インフルエンザの治療薬「タミフル」を開発した会社としてその名をご存知の方も多いであろう。ちなみにタミフルは先進各国で使用されているのだが、その実に8割近くがわが日本である。

余談だがタミフルの効果はインフルエンザウイルスの増殖を抑えるのであり、けつて治しているわけではない。安静にしていれば1週間で回復する症状を2日間短縮するだけである。

誤解してほしくないが、肺や心臓疾患を持つ高齢者にとつては、使用も必要な場合がある。長時間の発熱や2次感染としての肺炎誘発は死に至ることだから。

しかし猫も杓子もタミフルを飲むのはどうかと思う。ロシュ社のお膝元スイスでは、それほど使用されていない、というか国民が薬を求めない。病気に対す



フレスコ画「東方三博士の旅」（ベノツォ・ゴッツオリ画）キリストを礼拝するベツレヘムへの旅の列にメディチ家の人びとが描かれ、ゴッツオリ自身も列に加わっている。つまり、さん博士の旅の話に題材を借りて、メディチ家の肖像を描いたものといわれている。



大塚国際美術館。世界26ヶ国、190余の美術館が所蔵する現代絵画まで至宝の西洋名画1,000余点を大塚オーミ陶業株式会社の特許技術によってオリジナル作品と同じ大きさに複製している。

る考え方の違いだろうか。またまた横道にそれた。パトロンの話を続けよう。美術館ではないが米国のバーンズ・コレクションで知られる財団は、製薬業で財をなした。豊富な資金が美術品収集の原動力となったといつてよからう。

このように書き連ねると、やはりクスリ屋は儲かっているんだなと思われかねない。しかしここで言いたいのは儲けたお金の使い道である。国際NOOオックスファム (Oxfam) によれば、世界人口の1%の最富裕層は1年間に生み出された富の8割を保有しているという。渦中のニッサン前会長も世界中に豪邸を構える余裕があったら社員の給与をアップさせるなり、せめてメディチ家の当主に做つて有望な若手芸術家を経済的に応援するか、苦しい運営を強いられている地方の中小美術館に助成するなどできなかったのだろうか。

さて当の製薬会社であるが、国際的な新薬開発競争が熾烈さを増し、社会貢献に回すお金に余裕がなくなっているようだ。

美術館ではないが、昭和30年〜40年代は、日本の製

薬会社は社会に目を向けた数多くの活動をしてきた。東京オリンピック後の日本水泳界をリードした山田スイミングクラブを創設したのは目薬で有名なロート製薬の当時の社長である。ビタミン剤が得意分野だったエーザイは岐阜県各務原市川島竹早町に「内藤記念くすり博物館」を開設し数万点に及ぶ資料を広く一般に公開している。

アリナミンの武田薬品は京都に薬用植物園を開園し、希少な薬用植物の保護・保全を行っている。私も一度訪れたが京都市内を見下ろせる山の中腹の広大な斜面に、約2600種類の薬用植物を有し、日々その収集と栽培に努めている。

しかしどこも運営維持には苦勞しているようで、本業に陰りが見えた途端にまっさきに縮小させられるのではと危惧している。

メディチ家のような大パトロンが今後現れることはないだろう。しかし「くすり屋」が果たした芸術への歴史的貢献を心のどこかに留め置いてほしいと、「くすり屋」のはしくれである私は思うのである。

(たけまさふみこ)



12月の夜。スーパーから出ると、夜になって雪も降り始めていました

2018年も終わりに近づきました。
スタンリー・キューブリックの「紀元2001年宇宙の旅」を見たのは1968年だったので、50年も前のことになってしまいました。当時は21世紀のこと、おもうなど遥かにおよばず、未来そのものに、ぼう然と畏れ、身震いした記憶があります。しかし、こうして50年経って、宇宙も科学もあの頃のようなイメージとはずいぶん認識が横滑りしました。なにかの話しの途中で、「世界は開かれているとおもいますか」と、亡くなった若林さんに問われたことがあります。そうだとおもいます。と答えたときに、そうか、キミもかというような表情に、私はそれ以外の答えがあるんだろうか、と戸惑ったことも50年すぎて、忘れられません。変化すること、しないこと。できないことの違いも認識できないのでしよう。変化することこそが、若者には、絶対的なまでに課せられた使命なのでは、と思い込んでいたフシがあります。50年のスパンとは、見え方が「変わる」のではなく、少しスライドすることなのかもしれません。